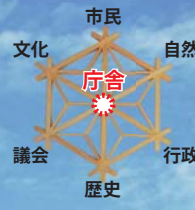


市民・文化・歴史を未来につなぐ

これからのまちづくりには、市民と行政が「新たなつながり」を築いていくことが必要です。歴史を継承するこの地に、市民協働の場となる交流棟（現新館）を中心とし、行政棟、議会棟、これら3つの建物が、それぞれ独自性を持ちながら、つながり、調和する庁舎を提案します。

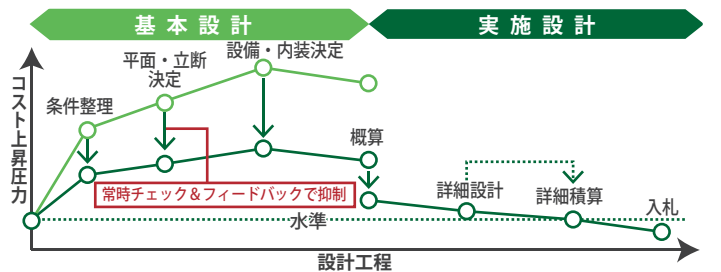


■図-1 杜を背景に、独自性を示しつつ調和した景観のL型庁舎のイメージ

特に重視する設計上の配慮事項

- 継続的なコスト管理+「居ながら工事」への配慮

検討は常にコストと共に実施、的確なコスト管理
根本検討：面積削減、形状単純化、地下工事・掘削抑制というコスト削減の根本となる検討を初期段階で実施、条件化すると共に、工期短縮も検討します。
常時確認：設計初期段階から段階毎に最新庁舎設計のコスト情報を元に概算し、フィードバックします。都度の提案・検討に際しても、常にコスト情報とセットで協議し、無意識によるコスト増を防止します。
市民・職員・近隣に配慮した同敷地内での建替計画
仮設計画：利用者動線、インフラ盛替、セキュリティ、防災連携等、利用者の安全に配慮し、徹底検証します。
居住性配慮：近隣住民や職員が過ごす中での「居ながら工事」の居住性に十分な配慮をします。低騒音・低振動の工法・機械による工事計画、工事中の建物を防音パネルで囲む仮設計画等、設計段階から検討します。

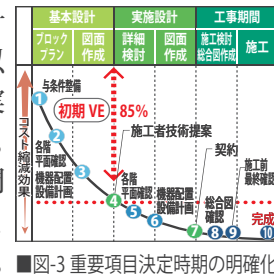


■図-2 打合せ過程でのコスト上昇圧力を常時チェック&フィードバックで抑制

取組体制・設計チーム

- 実績豊富な担当チーム+本社専門チームで支援・品質管理 -

庁舎・改修・木造の専門家によるチーム編成
実績：管理技術者、意匠主任をはじめ、構造、設備、コスト主任も庁舎、改修、木造に実績豊富なチームです。
改修：豊富な改修実績を有する専門チームが、安全かつ的確で、魅力ある改修を実現します。
豊富な実績を活かした全社的な取り組み体制
コスト管理：縮減効果は基本設計段階が最大です。庁舎 170 件以上の蓄積と最新の複数庁舎設計実績を元に的確にコスト管理します。
品質管理：蓄積した知見を専門部門が的確に活用・検討、課題を解決し、多段階審査で高品質を実現します。



■図-3 重要項目決定時期の明確化

安心のスケジュール管理

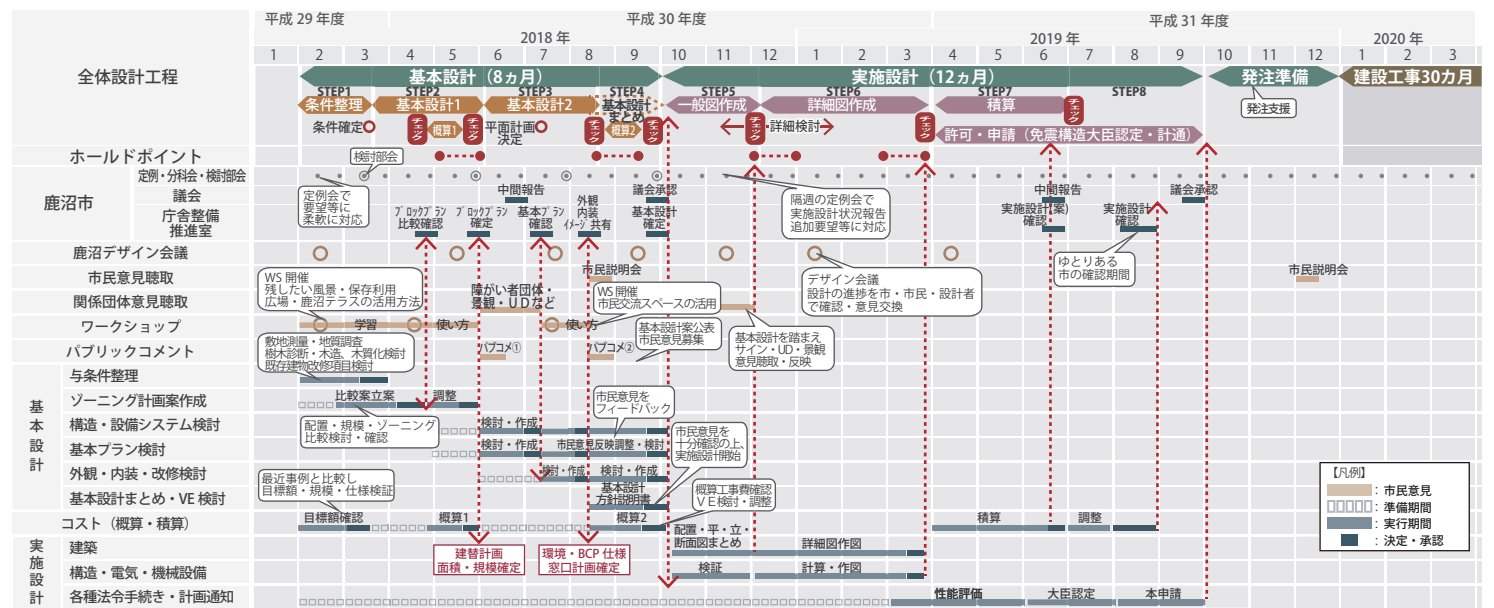
- 検討すべき時期・内容、決定すべき時が「見える工程表」により、情報共有+手戻りのないホールドポイントによるスケジュール管理 -

多面的な調査分析、市民・地場産業とつくる新庁舎
情報共有：担当各課や市民へのヒアリング、現地調査により要望を把握し、検討過程を通じて情報共有します。
地場産業利用：地元の森林組合、木工業等と協力して、地場産業の活用方法を基本設計段階から検討します。
ワークショップ：市民スペースの利用や働く環境のワークショップを開催し、庁舎イメージを共有化します。
「鹿沼デザイン会議」の提案：鹿沼の「木」の庁舎への活用や夏祭り、市民活動における新庁舎の活用など、市民とともに「鹿沼らしさ」を生みだす検討会議を提案運営します。

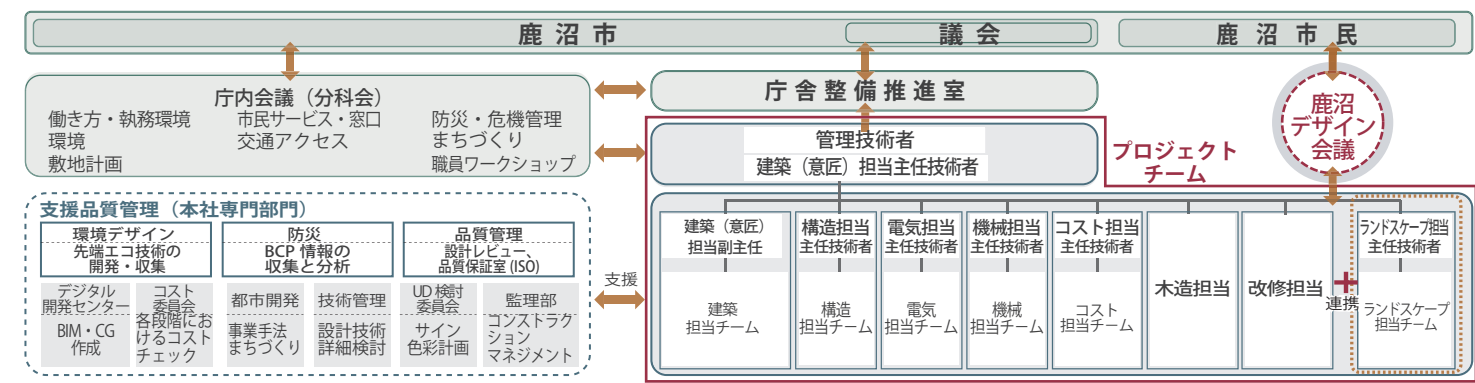


■図-4 鹿沼デザイン会議

検討・決定のタイミングを共有する「見える工程表」
工程共有：庁内各部門の職員が、検討・決定の時期を見通せる工程表に基づき、課題を共有していきます。
手戻りを防ぐ、段階的に合意形成
ステップ工程：条件確定、平面計画、詳細検討等、テーマを明確化、成果を積み上げる工程運営をします。
ホールドポイント：各段階毎に関係者間の整合確認を行い、段階ごとに決定事項として合意形成を行います。



■図-6 市民・市の意向を十分に確認しながら進める設計工程



■図-5 専門家を結集した設計チーム体制